

銀杏坂

～輝く薩摩中央～

令和4年7月30日(土) 南日本新聞

さつま町が月に一度開く「さつまる・ふくしマルシェ」に本校福祉科の生徒が参加したことが、南日本新聞に掲載されましたので紹介します。

福祉マルシェ 高校生も交流

さつま町が月に一度、福祉事業所の生産品などの販売を目的に開く「さつまる・ふくしマルシェ」に、薩摩中央高校(同町)と出水中央高校(出水市)が初めて出店した。生徒たちは約150人の来場者や、事業者と交流を深めた。写真。

21日、宮之城ひまわり館であったマルシェには、町内外6事業所の野菜や加工品が並んだ。薩摩中央高福祉科の1年生13人は車いすの操作や段ボールベッドの使い方を説明。出水中央高医療福祉科の2年生4人は学校を紹介した。福祉事業



所による就職面談会も初めて合同開催された。

薩摩中央高の上窪優太さんは「多くの人でにぎわっていて驚いた。みんなで協力し合って活動する各事業所の雰囲気を感じる事ができて、いい経験になった」と話した。(右田雄一)